

2022（令和4）年度 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書

【二本松カトリック幼稚園】

当幼稚園における2022（令和4）年度の事業内容につきまして、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画（=Plan）	実行（=Do）/評価（=Check）	改善（=Action）
目的 （園則より）	この幼稚園は、学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育し、キリスト教に基づき、幼児に適当な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、道徳的心情、将来の善良なる社会人としての健康と徳性の基礎を作り、家庭教育を補うことを保育の目的とする。	幼稚園教育要領等に基づき、「感動する心、感謝する心、祈る心、共に生きる力」を育てる教育活動を実施した。園児一人ひとりを大切に保育にあたり、特に地域の教育資源を生かし、特色となる取り組みに心がけた。2022年度の定員充足には僅かに及ばなかったが、卒園児、地域住民に深く愛され、地域に開かれた幼稚園として目的を果たしている。	2023年度についても、カトリック的教育目標に添って職員の連携を一層強化しながら、更なる教育の充実を図り保育を進める。更に、その充実した内容が広く周知されるように取り組んでいく。
年間行事について	積み重ねと継続を大切に、各種行事を遂行する。予定の詳細については、幼稚園の年間行事予定表を作成し公表する。	コロナ感染予防を第一に各種行事を行った。始業式等は密にならないよう注意して実施した。また、運動会や遠足等の行事に際しては、保護者の来園を制限するとともに、クラス別の実施とした。感染の波が大きかった8月から9月には行事の縮小もあった。保護者の協力も頂き感染防止を徹底した。 年度末は、コロナ感染に関する緩和策が求められたので、方針に従って新たな行事への取り組みを模索した。	コロナ禍後を見据えた、行事の再考が必要になる。積み重ねと継続を大事にしつつ、一つひとつの行事の在り方を検討しながら取り組んでいきたい。一方、コロナ感染の脅威はまだ完全になくなったわけではないことも念頭に置きたい。 運動会や遠足、サマー体験を始め、コロナ禍で縮小してきた行事は、単に元に戻すのではなく、園児への教育効果を検証しつつ、新たな方向性を見出す一年になる。

		<p>※主な行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育・祖父母参観 ・誕生会・避難訓練（各月） ・始業式・入園式（4月）、マリア祭（5月）、水泳参観（6月）、夏祭りごっこ・七夕のお祝い・年長サマー体験（7月）、運動会（9月）、遠足・人形劇鑑賞・おまつりごっこ・ハロウィンパーティー（10月）、七五三のお祝い（11月）、クリスマス会（12月）、なわとび大会・買い物体験（1月）、豆まき・お店屋さんごっこ（2月） ひな祭り会、卒園式・修了式（3月） <p>※日常の活動として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リトミック・英語教室・体育教室・水泳教室 ・課外（体育・造形・水泳） 	
新規事業について	施設点検の実施	非構造部材の耐震化点検、施設内設備（遊具等）の安全点検をチェックリストにして実施した。	危機管理の視点から、園児の安全のために、点検、施設内設備を継続したい。
	絵本の購入	教育的観点から、年長・年中・年少用として、園児用絵本各30冊、大型絵本、各4冊購入し、保育時等に利用している。	これらの教材を有効に使っていけるよう、絵本という教材の研究もしっかり行い、園児の情緒の発達に努めたい。
	乗り物遊具の購入	三輪車の遊具が老朽化したので、3台購入した。	新しい遊具も含めて、園児が安全に遊ぶことができるよう留意したい。点検・整備を徹底する。
	保育室のドア設置	年中（ゆり組2）の引き戸の不具合のため、引き戸枠の取り付けに伴う工事を行った。	保育室を安全に、効果的に使うよう今後も維持管理に努めたい。
	乗り物遊具収納庫設置	乗り物遊具の収納スペースに、収納庫を設置した。	遊具を長く使っていけるよう、収納庫を活用したい。

	生人男子用のトイレ設置（臨時対応）	男子教職員、来客用男子トイレがなかったため、園児用トイレを一部改修し設置した。	園児のトイレ、教職員・来客用トイレともに清潔が一番に考えて維持管理したい。
	職員駐車場整備（臨時対応）	河川沿いの職員用駐車場の一部が二本松市の所有地であったため、その事実を市と園で再確認し、正式に賃貸契約を結んで整地した。また、学園所有地の駐車場部分をアスファルト舗装した。	二本松市との権利・義務関係も明確にされたので、今後も誠実に対応したい。職員駐車場については、事故等がないように、また整然と活用していく。
教職員の資質向上について（含研修等への参加）	特別支援教育研修	カトリック幼稚園として、いわゆる発達障害等の園児も受け入れていることから、子ども理解と対応のノウハウを身につけるため外部講師においで頂き、講義、また園児への対応を実践した（計6回）。	外部講師を迎えての研修は、講義によって発達障害の理解が深まるとともに、個々の園児の支援に直接繋がるものとなった。今年度も外部講師を迎えての研修を継続し、研鑽したい。
	保育実践研修	幼児教育研究会による研修会に、教員が計画的に参加した。また、本学園主催の研修会に全員が参加（8月3日）、カトリック幼稚園の研修会（8月22日）に参加し、自己研鑽に努めた。	研修会に参加したことで終わってはならない。研修の成果を実際の保育に生かしていくことが大切である。また、研修会には具体的目標をもって参加することにした。
	学校評価（自己評価=教職員）の実施	学校評価シート（自己評価）により、社会人として、園の理念・方針の理解、教職員としての各観点で評価を行い、資質向上に努めた（年3回実施）。	自己評価にとどまることなく、幼稚園、また学園全体の評価（含第三者評価）を上げていく必要がある。教職員が現況を見つめ、切磋琢磨していけるようにしたい。
その他	二本松カトリック幼稚園の地域への理解促進	<ul style="list-style-type: none"> ・二本松市の子育て支援と協働 ・関係機関との連携 ・地域社会との連携 	今後も地域社会に認められる園をめざす。

2. 総括

前年度は園長や幹部教員が退職した中で、新体制でのスタートになった。年度当初はやや暗中模索で園運営がなされた感があったが、園長、主幹教諭、教務主任を中心として、担任を始めとする教職員が子どもたちに寄り添いつつ保育活動を行った。危機管理を第一に考え、日々の保育、行事等をほぼ予定通りに実施できたことが成果だったと思われる。大きなけが等がなく保育できたことは幸いだった。

ただ、数年来のコロナ禍にあって以前のような幼稚園の保育活動ができなかったうえ、感染状況の悪化に伴い園児、保護者、教職員も多数罹患し、個々の健康状態の危惧とともに、園運営にも大きな影響を及ぼした。幸いにも、健康面、園運営に大きな影響が及ばなかったことに安堵している。総じていうと、コロナ禍最後の一年であり、それに伴った行事、園運営にならざるを得なかった。

年度末からコロナ禍の終焉が見え始め、今年度は、コロナ後の園運営をどのようにするかが課題になる。園運営も、コロナ前にすべて戻すのではなく、それぞれを吟味し新しいものにしていく必要があるだろう。今年度が、その初年度になる。教職員でよく話し合ったうえで、より良い園運営になるよう園長としてもリーダーシップを発揮したい。カトリック幼稚園としての在り方を再考して、より良い園環境を作ると共に、教職員が切磋琢磨して保育の質の向上に努める必要がある。学校評価シートはその指針になると考えられるので、効果的に運用したい。また、生きにくさを抱えた子どもも多い中、外部講師による研修を継続するほか、教員と共に優しく子どもをサポートする、いわゆる「支援」員も必要かと思う。

2023年度の新規入園者は例年と比較して少なかった。次年度は入園者が多くなるよう努力したい。その対策として、新入園児クラブ（「ぴよぴよクラブ」）を開設することとした。これからも、少子化や子どもの多様性に対応できるような、二本松カトリック幼稚園でありたい。